



試験報告書

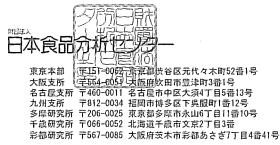
第 508070119-005 号
2008年(平成20年)08月22日

依頼者 清水建設株式会社(環境・蒸気洗浄研究会)

検体 ハイパワー酸化水(ジアムバー)200ppm

表題 ラットを用いた急性経口毒性試験

2008年(平成20年)07月04日当センターに提出された
上記検体について試験した結果は次のとおりです。



本報告書は他に転載するときは当センターの承認を要して下さい。



第 508070119-005 号 page 1/4

ラットを用いた急性経口毒性試験

要約

ハイパワー酸化水(ジアムバー)200ppmを検体として、ラットを用いた急性経口毒性試験(限度試験)を行った。
試験群には20 mL/kgの用量の検体原液を、対照群には注射用水を雌雄ラットに単回経口投与し、14日間観察を行った。その結果、観察期間中に異常及び死亡例は認められなかった。このことから、検体のラットにおける単回経口投与によるLD50値は、雌雄ともに20 mL/kg以上であるものと考えられた。

依頼者

清水建設株式会社(環境・蒸気洗浄研究会)

検体

ハイパワー酸化水(ジアムバー)200ppm

試験実施期間

平成20年07月08日～平成20年08月22日

試験実施場所

財団法人 日本食品分析センター 多摩研究所
東京都多摩市永山6丁目1番10号

試験責任者

財団法人 日本食品分析センター 多摩研究所
安全性試験部 安全性試験課
川本 康晴

試験実施者

永井 武、小澤 美来、鈴木 美さら

本資料は、私(他3名)が実施した試験に基づいて作成されたものに相違ありません。

平成20年08月25日

川本康晴

日本食品分析センター



第 508070119-005 号 page 2/4

1 試験目的

検体について、ラットにおける急性経口毒性を調べる。

2 検体

ハイパワー酸化水(ジアムバー)200ppm

性状：無色透明液体

なお、2008年07月04日に到着した検体を試験に用いた。

3 試験動物

5週齢のBrlHan: N1ST系@Jc1雌雄ラットを日本クレア株式会社から購入し、約1週間の予備飼育を行って一般状態に異常のないことを確認した後、試験に使用した。試験動物はポリカーボネート製ケージに各5匹収容し、室温23℃以下で、照明時間12時間/日に設定した飼育室において飼育した。飼料[マウス、ラット用固形飼料;ラボラストック、日本産産工業株式会社]及び飲料水(水道水)は自由に摂取させた。

4 試験方法

検体原液を投与する試験群及び対照として注射用水を投与する対照群を設定し、各群につき雌雄それぞれ5匹を用いた。

投与前に約1時間試験動物を絶食させた。体重を測定した後、試験群には検体原液、対照群には注射用水をそれぞれ20 mL/kgの投与容量で胃ゾンダを用いて強制単回経口投与した。観察期間は14日間とし、投与日は朝、翌日から1日1回の観察を行った。投与後7及び14日に体重を測定し、1-検定により有意水準5%で群間の比較を行った。観察期間終了時に動物すべてを剖検した。

日本食品分析センター



第 508070119-005 号 page 3/4

5 試験結果

1) 死亡例

雌雄ともにいずれの投与群においても、観察期間中に死亡例は認められなかった。

2) 一般状態

雌雄ともにいずれの投与群においても、観察期間中に異常は見られなかった。

3) 体重変化(表1及び2)

投与後7及び14日の体重測定において、雌雄ともに試験群は対照群と比べ体重値に差は見られなかった。

4) 剖検所見

観察期間終了時の剖検では、雌雄ともにすべての試験動物に異常は見られなかった。

6 考察

検体について、ラットを用いた急性経口毒性試験(限度試験)を実施した。検体原液を20 mL/kgの用量で単回経口投与した結果、観察期間中に異常及び死亡例は認められなかった。したがって、検体のラットにおける単回経口投与によるLD50値は、雌雄ともに20 mL/kg以上であるものと考えられた。

7 参考文献

OECD Guidelines for the Testing of Chemicals 420(2001)。

日本食品分析センター